



# クラブ 会報

## CLUB BULLETIN (WEEKLY)

### 鶴岡ロータリークラブ

### TSURUOKA ROTARY CLUB

### D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30~13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
	電話	0235 247711

会長	嶺	岸	光	吉
幹事	佐	藤	村	徳
会報委員長	川	池	繁	男
	小	海	正	治
	西	藤		一
	佐			昇

---

No., **1096** 1981. 2.24 (火) (曇) No.,34

---

### ヒシター紹介

佐藤五右工門君	請	負一温海R.C
滝 禅 源 君 仏	教	一立川R.C
内 田 智 誉 雄 君	相互銀行	} 鶴岡西R.C
斎 藤 吉 雄 君	陶 販 売	
伊 藤 拓 君	小 児 科 医	

### ◆ ゲ ス ト 紹 介

山形大学教授	土屋 功 位 氏
米山奨学生	エテバリ君、蔡君
交換学生	ジェームス君

# TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

## 会長報告

嶺岸光吉君

◎米山奨学生の蔡君とエテバリ君は、山形大学での課程を終えられて3月に帰国されます。留学生として日本で学んだ体験を生かして、それぞれの分野で自国のためにご活躍されます事を願います。

蔡君は、台湾と日本とは隣国でございますので来日する機会もあろうかと思いますが、その節には是非鶴岡にもお立寄り下さい。

又エテバリ君は貴国の政情不安定な要素もございますが、一日も早く平和の訪れる事を望んでおります。

◎2月23日は国際ロータリー創立76周年記念日となっております。パスト・ガバナーの早坂源四郎君よりこの記念日に因んでスピーチをお願いしております。

## 幹事報告

佐藤 衛君

◎会報到着—寒河江R.C、酒田東R.C 郡山東R.Cより10周年記念誌

◎米山奨学生送別会のご案内

2月28日(土) PM 6:00 於 住よし 会費 ¥ 5,000

◎米山奨学生 エテバリ君、蔡君の卒業に当って

山形大学教授 土屋功位氏よりお話をいただいた。蔡君は52年4月に3年生に入学、卒業論文は“コンバイン・カッターの動力性”、エテバリ君は53年10月に入学、卒論は“桑園の機械化”で両君ともに優秀な成績をおさめられた事と、ロータリーを通じて米山奨学生となられた幸運に対し深く感謝する意の挨拶があった。

## ◆ インターアクト防府研修旅行に参加して

菅原辰吉君

2月15日より19日迄、生徒男女併せて30名、顧問教師9名、ロータリアン地区委員3名、添乗員1名、計43名は防府—秋芳洞—萩—津和野—岩国—宮島—広島を廻って来ました。

先ず防府では多々良学園高校、防府商業高校、三田尻女子高校インターアクト主催の交歓会があり、バナー等交換した。

防府では防府天満宮、毛利邸を見、秋芳洞では世界第3位の鐘乳洞等見学して萩に行った。

萩は私の大好きな町で武家屋敷、土塀等、昔のままの城下町である。松下村塾等今の生徒からみれば物置きの様な粗末な暗い場所から明治維新の偉人傑士

が沢山出る所。吉田松陰、高杉晋作、久坂玄端、伊藤博文、山県有朋、木戸孝允等薩摩、土佐と共に原動力となった。それ等の遺跡が町中に充満して生徒には深い感動を与えたものと思っている。

津和野は和紙の産地で、森鷗外の旧居があった。岩国で錦帯橋を渡り、宮島で厳島神社をお詣りし、広島で平和公園の原爆資料館を拝観し、慰霊碑に「安らかに眠って下さい、過ちは繰り返しませんから」とぬかづいて来た。

## ◆ 私のロータリー観

早坂源四郎君

昨2月23日は、ご承知の通りロータリーの創立記念日で今年は76年目であります。上野プログラム委員長より何か記念スピーチをする様に、そして君の思ふ様なスピーチをしてくれと云う非常に有難い寛大なご推せんのご依頼を受けましたので、一も二もなくお引き受けしてしまいましたのですが、さて具体的に話をしようと思いますと、昨今余り勉強をして居りませんし、また昔の様にパッションも無くなって居りますので、ご期待に副えるかどうか解りませんが、ロータリーに関する最近の私の感想、忌憚のないロータリー観を少し、しゃべらせて頂きたいと存じます。

先程、私は最近ロータリーに対し少し情熱を失いつつあると申し上げましたが、その最大の原因は、R.I国際ロータリーの中枢部と申しますか、その管理主体であるR.I理事会の考え方であります。抽象的に申しますと、R.I理事会はロータリーの精神文化面を考慮せず、ロータリーの理想を説かず、余りにも隙のない合理主義的、そして形式主義的、計数的な考え方の上に片寄り、ロータリーの理想主義的な精神面を無視している傾向があるのではないかと云う事であります。勿論ロータリーは実践哲学を主唱するものですから、現実的な有効な行動力を無視する事はできませんが、先人の辛苦の末に集積された数々の精神的遺産を捨て去る事は出来ないと思うのであります。

具体的に申しますと、今から65年前の1915年のサンフランシスコ大会で採択されたロータリーの道徳律に対する考え方であります。1977年の同じサンフランシスコの規定審議会で議員の総意に依って、道徳の高揚、復興をはかるために、道徳律の刊行と頒布に努力すべき決議をしたのであります。その後のR.I理事会はこの決議を無視し、1980年のシカゴの規定審議会では逆にR.I理事会より、国際ロータリーの定款細則の上に唯一つ残されていた道徳律の文字を全部抹消する提案が提出され、之が採択されてしまいました。手続きだけの問題で、道徳律本体そのものには変わらないと云う説明もありますが、R.I理事会の考え方は道徳律の内容は綱領の中で述べられて居り、ロータリーとしては綱領に重点を置くと云う考え方であり、道徳律の中には余りにも宗教的で

あって、現代の経済生活にマッチせぬ事が多いので、理事会として之を現代風に解り易く改文修正すると云う決議を1977年～78年に決議をしまして結局今日まで何も改訂できずに引きのばされているのであります。昨年末、R・Iのクラリッヒ会長が仙台にお見えになった時、私は直接会長に直訴しましたが、会長は理事会で目下改訂を検討中であると述べられていましたので、それ以上要請もできず、引き下って来ました。

R・I 理事会が道德律が現代に適合せぬ故、之を改訂し文章を改めると云う事に、私は先年ロータリーの研究会で、これは、仏法の般若心経の文章が解りにくいから、之を改文すると云う事と同じであると述べて真向から反対意見を述べたのであります。駄目でした。私は道德律は原文のまま、ロータリーの遺産として先人の情熱とその努力を讃える貴重な文献として保存すべきであると深く考えているのであります。

道德律は「最も良く奉仕する者、最も多へ報いられる」そして「超我の奉仕」と云うロータリーのモットウだけでは不十分で解りにくいと云う一般会員の要請から60年前に生れたものでありまして、その後出来ましたロータリーの綱領、また「四つのテスト」等の根源をなしているものであります。かかる重要なものが、現代に於て何故に、敢えて申し上げれば、忌避されるのかと云いますと、これは私の推測であります。道德律の中の次の2つの箇条が“きびし過ぎる”また余りにも「キリスト教的」と云う事ではないかと思われま

○その1は

第6番目の“自分の企業活動にあっては、自分の競争者と同等又はそれに勝る完全なサービスを提供する様努力すること、又若し自信のない時は、採算上きびしい限度を超えても余分のサービスを提供すべき事”

(これを簡約しますと、明らかに損をしても、サービスを徹底せよと云う事を要請しているのであります)

○その2は

第11番目の最後の文章ですが“最後に「あなたが人にして貰いたいと思うことは何んでも人にもしてあげなさい」という(マタイ伝第7章)黄金律の普遍性を信じ、我々はこの地上の自然資源がすべての人々に均等に頒ち与えられる社会こそ最上のものであると主張してやまないのである”と云う項であります。

ロータリーは1905年、シカゴのダイヤボン街のユニティ・ビルの一室で、平凡な4人の市民より生まれました。その中には偉大なロータリーのリーダー、ポール・ハリスを含んでいました。彼の哲学は一言にして云えば友愛と奉仕の哲学であり、現代まで延々として続くロータリーの根本理念であります。勿論

彼はロータリーの創立者であり、その榮譽を受けるにふさわしい人世哲学の持ち主であります。ロータリーの發展拡大には、彼がその著書の中で述べている様に、幾多の人材と、熱心な理想を追求するロータリアンが多数居ったからであります。ロータリーの2つの標語は、アーサー・シェルドンとフランク・コリンズの作であり、先程来、長々と述べました道徳律はアイオワ州の小さなクラブ、スウ・シティ (Sioux City) R. C. のジェー・アール・パーキンスを長とする委員会の委員の努力の結晶から生れたものであります。そしてこの道徳律をもっと簡結な言葉で表現せよと云う要望から生まれたのがハーバート・ティラーの“四つのテスト”でありました。

この様にしてロータリーは1905年に生まれ、1930年の不況時代を超えて發展して参りました。ご承知の通り、1800年代の末期よりアメリカを襲った不況の嵐はロータリーの誕生した1905年には少々鎮静化したとは云え、街々には至る所で不正不義の取引が行われていました。シカゴの町もその例外ではありません。呑むしろ全米で最も強悪な町であったと云えましょう。新興の町のシカゴは、犯罪と不正不義の文字通りの町であったのです。この故に友愛と奉仕を理想とするロータリーが求められ多くの善良な人々の共感を得たと云う事はまた当然であったと云えましょう。同様の事が1930年のハーバート・ティラーの四つのテストの出現にも云えると思います。1930年代は生産過剰による全米大恐慌期であって、有名なフランクリン・ルーズベルトのニューディール政策が実施された事はご承知の事と思います。

ハーバート・ティラーはある倒産会社の再建を引き受け、これを運営する経営方針として四つのテストを草案して再建を成功に導いたのです。彼が極めて熱心な信仰深いクリスチャンであり、またロータリアンであった事は当然でありました。

私は以上の2つの不況時代の事例より推察しまして、ロータリーの存在とその拡大進展がアメリカ経済の不況現象と深い関係がある事が察知されるのです。換言しますと、キツイ不況期を乗り切るためには、強い精神力を必要とする事であり、互いに手を取り合い友を愛し、友を信じて進まねばならぬ事をロータリーは教えていると思います。更に一步進め私共の経営理念として、目先の事に捕われず常に長期的展望に立って自己の利のみに走る事なく、常に他人を利し、他に奉仕する事を考えれば、それが私共自身の幸せに繋がっていく事をロータリーは教えていると云う事があります。

以上の様な長期的視野を持った経営者が我が国には比較的多かったのでないだろうか？ 近代的合理的経営手法より、時によっては前時代的な我が国の経営手法が昨今、欧米の経営者によって見直されつつあると云う事は、我が国経営者の多くが精神的教養度が深く、そして労働の分野に於ても同様の事が考え

られ、労資一体となった勤労感が充実して居った故だとも考えられます。

私は企業経営に於けるロータリーの精神的効用を深く信じています。ロータリーの奉仕の理想を如何に吾々の日常の企業活動に適用して、常に長期の繁栄を考え長期の目標を打ち立てて、私共の地域社会の進展を計る事が1930年の米国大恐慌期に比すべき、との1980年代の世界的インフレ不況期に対応すべき肝要な方策であり、道である事を痛感する次第であります。

## 委員会報告

◎ 米山奨学会

迎田 稔君

献金有難うございました。8,830円でした。

## 出席報告

本日の出席	会員数	71名	欠席者	秋野君、池田(昭)君、中村(真)君、村井君、風間君、金沢君、黒谷君、皆川君、迎田君、森田君、中野君、斎藤(利)君、笹原君、佐藤(元)君、玉城君、渡会君
	出席数	55名		
	出席率	77.78%		
前回の出席	前回出席率	70.42%	マークアップ	菅原君一甲府R.C 佐藤(忠)君一酒田東R.C 飯白君一立川R.C 今野君、板垣(俊)君、黒谷君、三井(健)君、佐藤(友)君、丹下君、山口君一鶴岡西R.C
	修正出席数	60名		
	確定出席率	84.31%		